佐倉市少年野球連盟友遊ボール大会規則

令和元年５月２５日改定

（出場資格及びチーム構成）

１．この大会は、少年野球の底辺拡大を図るため、多くの低学年（小学３年生以下）と父母の参加を得て少年野球の楽しさを理解して頂く事を目的に実施するもの。

２．チーム構成は、成人者による代表、監督、コーチ（２名）、スコアラー、選手は３年生以下の小学生で主将を含む**７名以上とその保護者２名を含めて２５名以内とする。**
但し、令和元年度も４年生の女子の出場を認める。

３．選手登録は、出場予定選手（保護者を除く）全員の氏名を記載したものを提出期限までに１通提出する。
（背番号は不要）

（服装・用具）

１．出場するチームの服装は、ユニフォーム又は、運動の出来る服を着用し、靴は運動靴若しくはスパイクシューズとする。（金属製の使用を禁止する。）

２．バットは県連盟指定のメガホンバットとし、ボールは柔らかいケンコーボールとする。これ以外の用具の使用を禁止する。　　連盟大会では大会本部で用意するのでチームからは不要。

（開会式等）

１．大会開会式での選手宣誓は、抽選時に佐倉市内郵便局長が当該番号をクジで引いたチームの選手とする。

（試合の集合時間・準備）

１．第１試合のチームは、試合開始時刻３０分前までに集合し、球場責任者による受付を完了すること。第２試合、第３試合のチームも同様とする。

２．メンバー表の提出は不要。選手数の少ないチームに負傷者が出た場合は、既に交代した選手の再出場を認めることとする。

３．ベンチは、組合わせ表通りに行う。攻撃の先攻・後攻は、試合開始前に両チームの主将によるジャンケンにより決定する。シートノックは、大会運営上原則として行わない。

５．ベースコーチは、指導者または保護者が入ることとする。

６．友遊ボールのグランド設営は大会役員、参加チームの協力者において行う。

イ）各塁間は１５ｍ

ロ）本塁と投手間は５ｍとし、その中心から半径１ｍの円を引きその円内から投球する。

ハ）１・２・３・本塁の中間地点に「見なしライン」を引く。

ニ）本塁から外野に向かって４０ｍの地点にホームランゾーンのラインを引く。

（試合時間及び試合内容等）

１．この大会は２日間で行う。初日の試合は、1～３回戦までをブロックのリーグ戦とし、上位２チームが決勝トーナメント戦に進出できる。ただし、この大会に出場するチームの数及びその他の都合により、ブロックリーグ戦の試合数の変更または、ブロックリーグ戦を中止し、全試合をトーナメント戦とすることがある。
なお、各ブロック戦において上位チームが同率の場合は代表決定戦を行い、決勝トーナメント出場チームを決定する。代表決定戦は２イニングを行い、勝敗が決定しない場合は、勝敗が決する迄繰り返し行う。
２日目に決勝トーナメント及び表彰式・閉会式を行う。

２．試合は、１試合５回戦で勝敗を争うこととする。タイムゲームを適用し、３０分を超えたら新しいイニングには入らないで、その時点の得点をもって勝敗を決定する。得点差によるコールドゲームは３回均等回終了以降１５点差の時適用する。決勝戦も同様とする。日没・降雨によるコールドゲームの適用も同様とする。

３．試合の攻守交代は３アウトとする。守備は（投手を除く）９名（登録選手の保護者を含む）とし、２名以内の登録選手の保護者（女性）の守備位置は捕手と１塁手に限定する。**打順は８・９番とする。**
※参加する男性の保護者は味方相手の投手に限る。打者として打席に立つことは禁止する。

４．投手は攻撃側のチームの保護者（父親可）とし、メンバー登録された選手の保護者に限定する。投手は前記の５ｍのサークルから下手投げでボールを投げることとし、打者の打ったボールに直接当たるまたは触れたり守備側の守備を妨害・妨げをした場合は打者をアウトとする。

５．守備に付く選手は、投球前に５ｍライン内に位置することは出来ない。但し、バント等に対し投球と同時に前進し打球を処理することは認める。

６．打者が打ったボールが５ｍラインを超えない場合はファールボールとみなし、打ち直しをする。但し、野手が5mライン内でダイレクトで捕球した場合に限り、ファールフライの直接捕球とみなしアウトが成立する。

７．友遊ボールで競技で３振・死球・四球・盗塁はありません。打者がメガホンバットでボールをフェアゾーンに打つかファールフライを直接捕球されるまでは打席に立つことが出来る。但し、頭上より高く投じたボールを打った場合は、その打者の打撃は無効とし再度打ち直すこととする。（味方の投手にも注意を与える）。繰り返しこの行為を行った場合には打者はアウトとなる。

８．友遊ボール競技は全て（フライ、ライナーの直接捕球を除く）フォースアウトとし、タッチアウトはないものとする。従って守備側の選手がボールを持って走者にタッチをしてもアウトにはならない。必ずベースに入るかベースタッチによってアウトが成立する。

９．走者は投手が投球し、打者が打撃をしてから離塁すること。また、野手から投手にボールが返球されている時も進塁してはならない。また、各塁へのスライディングは認めるが、守備側選手に対して危険とみなした場合は走者をアウトとする。

10．グランドには本塁から外野まで４０ｍの位置にラインを引き、打球がダイレクトでこのラインを超えた場合はホームランとし、ゴロで超えた場合は２塁打とする。

11．記録員は各会場とも連盟の理事が担当する。

12．試合の審判は各コートとも帯同審判制とする。球審（内野の位置）と副審（ホームベースの後方）を行なう。

（特別延長戦）

１．試合が５回均等回終了後又は30分（均等回終了）経過し、得点が同点の場合は、直ちに特別延長戦を実施する。打者は４番とし、走者は１番が３塁走者、２番が２塁走者、３番が１塁走者として１死満塁で１イニングを行い、得点の多いチームを勝者とする。１イニングで勝敗が決定しない場合は、決定するまで前記と同様で繰返し行い勝者を決定する。

（決勝トーナメント戦）

１．決勝トーナメントは各代表チームで抽選を行うが、ブロック１位と他ブロック２位チームが対戦する様に抽選する。先ずは第１位チームを抽選するが、同一クラブがある場合は決勝戦まで当たらぬように組合せする。次に２位チームを抽選するが第１位チームと同様に同一ブロック２位、同一クラブがあたらぬように抽選する。
なお、準決勝敗退チームは３位決定戦を行う。表彰式は上位４チームが参加すること。

（審判判定）

１．この規定に定めるもののほか、必要事項は審判が大会責任者と協議して決定する。

２．保護者の交代は保護者同士とする。

３．保護者の打順は８番、９番とする。